

令和5年度文化芸術振興費補助金メディア芸術アーカイブ推進支援事業

名古屋国際ビエンナーレ ARTEC 全記録アーカイブ事業

団体名 学校法人 多摩美術大学

概要／課題

「名古屋国際ビエンナーレ ARTEC」は、1989年に名古屋で開催された世界デザイン博と同時にスタートし、1997年まで合計5回開催された。オーストリアの「Ars Electronica」やアメリカの「SIGGRAPH」、カナダの「Images de Future」などと並び、世界最大規模のアート& テクノ・サイエンスの作品が集まる国際的なアート・フェスティバルだった。当時はメディアアートの黎明期であり、国内外からこの新分野に対して世界的に関心が高まるなか、大きな影響力を与える催しだった。

ARTECは、1980年代に開催されたグループ・アールジュニ主催の「ハイテクノロジー・アート」展が母体となって始まった。ARTECの終了年度には、文化庁メディア芸術祭や、NTT インターコミュニケーションセンターなどがスタートしており、1980年代～1990年代にかけて日本のメディアアート形成の主要なストリームを導いたのがARTECである。

ARTECは合計5回開催されARTEC事務局は解散したが、当時の事務局資料は今日も残されていた。本事業では残された資料を全てデジタルアーカイブ化する。

ARTEC 開催当時、ディレクターズ・グループおよび事務局スタッフは、国内外で開催されたアートフェスティバルやメディアテクノロジーを用いた主要なアーティストについて、実際に現地に出向き、インタビューやリサーチ調査を行っていた。このようにして ARTEC 事務局に集まった資料は、1980 年代～1990 年代にかけての国際的な第一線級のメディアアートシーンを知る上で貴重な資料である。その当時の主要作家のプロポーザル資料や事務局とのやりとりの記録など、作家ごとにファイリングされて残っている。本事業では、その資料を Web データベースに登録し、最終的に当時の活動の実態を編集して資料集をまとめる。

ハイテクは、芸術の先端でもある。

ARTEC '89

第1回 名古屋国際ビエンナーレ・ARTEC '89

●(ARTEC)は2年に1度開催されるハイテクノロジーアートの世界的な展覧会。
*「芸術と科学」この2つの融合から生み出される、新しい発見と夢でいっぱい(第1回名古屋国際ビエンナーレ・ARTEC '89)。1989年7月7日、いよいよスタートです。

●国際指名コンベンション部門「ARTEC 館」—世界から集まる、時代の感性と頭脳。世界を代表するアーティスト26人のエレクトロニクスなどの先端技術を駆使した作品群が、「未来の美術館」を華やかに、立体的にアピールします。
【会期/1989年7月15日土~11月26日日】
【会場/世界デザイン博覧会白鳥会場内「メイトック・中日新聞・CBCハピリオン」】

●国内公募部門「未来芸術展」—テクノロジーが、僕らのキャンパス、厳正な審査によって選ばれた。みずみずしい感性と発想を駆使したハイテクアートが日本中から大集合!
【会期/1989年7月7日金~7月23日日】【会場/名古屋市科学館展示ホール】

●公式シンポジウム「アート&テクノロジーの可能性」
●世界中から集まるアーティスト、評論家が、地球規模で明日のアート&テクノロジーの可能性と都市文化のありかたを探ります。
【会期/1989年7月6日木】【会場/名古屋市科学館サイエンスホール】

問い合わせ先▶名古屋国際ビエンナーレ開催協議会事務局 TEL:052-221-0753,0754
メイトック・中日新聞・CBC世界デザイン博覧会出展委員会 TEL:052-204-5219,5220

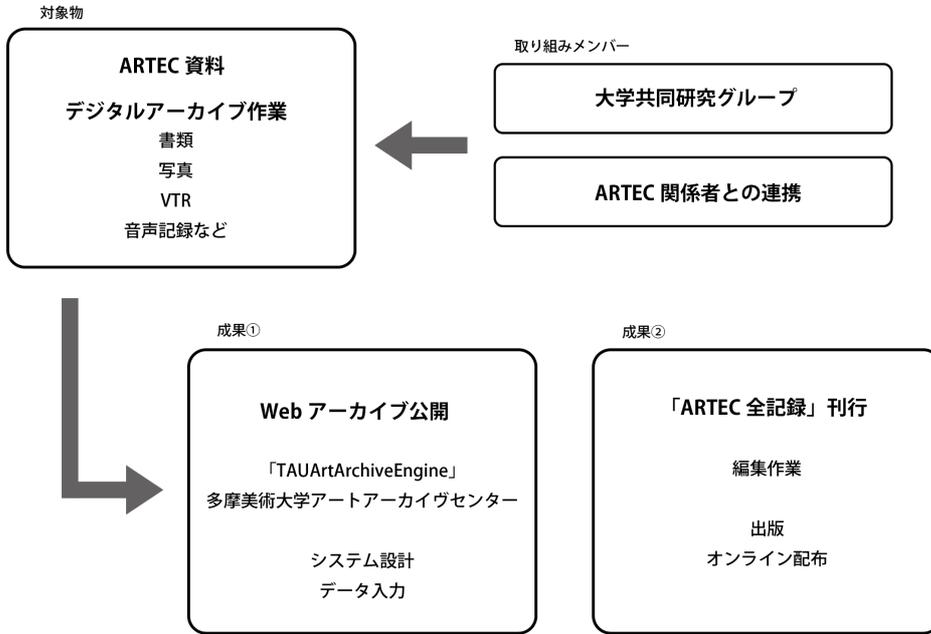
●運営● 名古屋国際ビエンナーレ開催協議会
●主催● 愛知県、名古屋市、中日新聞社、中部日本放送、世界デザイン博覧会協会
●共催● 名古屋市科学館
●協賛● 株式会社メイトック
●協賛● 外務省、金融庁、文化庁、科学技術庁、在日アメリカ・イギリス・イタリア・オーストラリア・オランダ・ドイツ連邦共和国・フランス各領事館

① スワファン・アントナス(オランダ)
② アルティ・バーコフ(オランダ)
③ ショーミ・カヘンバウアー(オランダ)
④ トム・ファン・グラー(オランダ)
⑤ ビル・バーカー(オランダ)
⑥ アルバート・ロム・モラー(オランダ)
⑦ ヤコブ・ファン・ファン(オランダ)
⑧ ヒューム・ゴッス(フランス)
⑨ フリッパ(フランス)
⑩ ユウラ(フランス)
⑪ マーガレット・ヘンリ(イギリス)
⑫ マーチ・ヤーン・スミス(イギリス)
⑬ リリアン(イギリス)
⑭ ウェニオン・キヤム(イギリス)
⑮ インコンタ(ドイツ)
⑯ フランソワ・フレジ(オーストラリア)
⑰ シン・ファン・ファン(オーストラリア)
⑱ ポートランド(オーストラリア)
⑲ 石井勝彦(日本)
⑳ 伊藤隆道(日本)
㉑ 藤井健(日本)
㉒ 河口洋一郎(日本)
㉓ 斎藤多摩(日本)
㉔ 宮島重男(日本)
㉕ 中島真(日本)

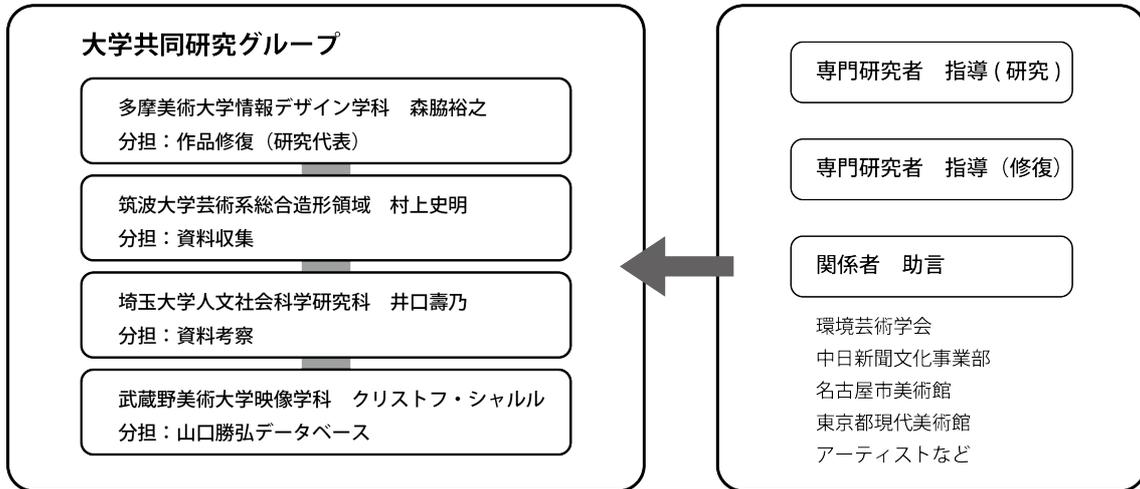


第1回名古屋国際ビエンナーレ ARTEC'89 ポスター

名古屋国際ビエンナーレ ARTEC 全記録アーカイブ事業 概略図



大学共同研究グループ組織





アーティスト領料



カセットテープ音声資料



会場案内



シンポジウムの様子



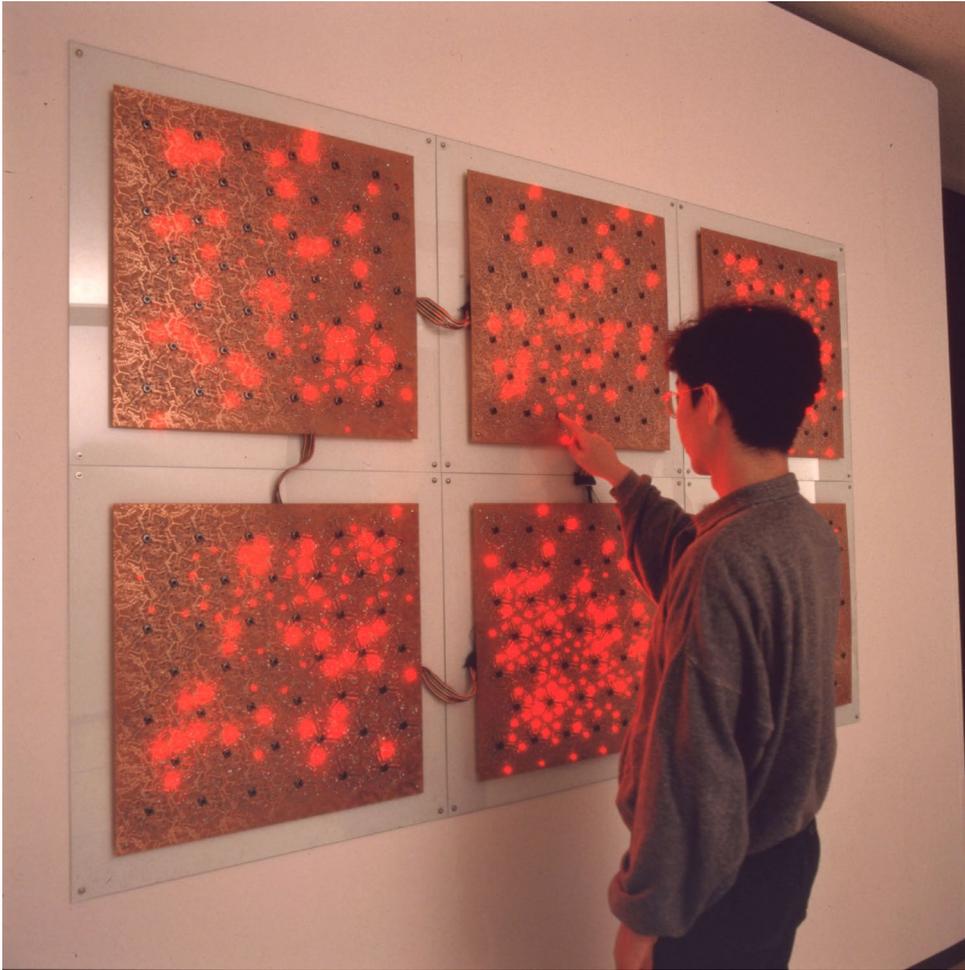
公募展審査風景



ARTEC'95 公募展表彰式



ARTEC'93 公募展グランプリ「MY CASTLE」伊藤尚未 サウンド・オブジェクト



ARTEC'95 公募展準グランプリ「夢を見る夢を見た...」 森脇裕之 インタラクティブ・アート

体制／手法

ARTEC アーカイブに取り組む大学連携研究グループでは、ARTEC 資料のデジタルアーカイブ作業を行う。そこで取得したデータは、多摩美術大学アートアーカイブセンターが開発した「TAUArtSearchEngine」を使用して、データベースに登録する。「TAUArtSearchEngine」とは、主催者側のデータ入力の利便化

と、閲覧者の検索を容易にする双方をサポートし、簡便で安定的なデータベース公開のためのトータルなソリューションである。タグ検索による柔軟なソート検索が可能な「TAUArtSearchEngine」の特徴を活かして、膨大な ARTEC 資料を体系的に理解しやすく、有効的に活用できるデータベースを設計・構築する。

データ入力 TAUArtArchiver での入力例



データベース入力画面

*注

多摩美術大学アートアーカイヴセンターとは、長年にわたって収集・蓄積されてきた芸術資源を統括的に保存・管理して、アーカイヴ資料と創作者の間に相互作用を生みだし、新たな作品や

思想の生成を促すアーカイヴを構築・提供することを目的に、2018年4月に設立された研究教育拠点です。

成果

・「TAUArtSearchEngine」による「ARTEC データベース」を構築し、全ての取得データを系統的に公開する Web サイトを立ち上げた。本年度は ARTEC データベースの基本設計を行った。今後はスキャンしたデータをこのシステムに登録し公開する。

・本年度は多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース 森脇裕之研究室Webで概要説明と、年次事業報告および成果物のダウンロードができるようになっている。（公開中）

<http://www.idd.tamabi.ac.jp/~moriwaki/artec/>

取り組みの意義

・1980年代～1990年代にかけてはインターネット前夜であり、この時期の作家資料は、主に紙媒体やフィルムなどで、デジタル化の対象になっていない。Web 検索でもヒット数が極めて少ない現状があり、ここに残っているアナログ資料をデータ化することは、認知されていなかったデータの宝庫となって、メ

メディアアート史の解明のために意義深いものとなる。

・本事業の最終的な目標として、1980年代～1990年代にかけての日本のメディアアート形成前夜の全貌を知る主要な資料集の編纂に取り組む。ARTEC資料を統合的に整理編集し「ARTEC全記録集」としてまとめる。約30年前のわが国で、エレクトロニクスを中心にした技術立国日本を支えたハイテク産業と、アート表現の文化的な深い関係が明らかになる。

・われわれの大学共同研究グループは、メディアアート関連人材の教育機関であるため、メディアアーティスト教育、メディアアート研究の有用な資料として、この事業の成果を専門分野の人材育成に活用できるような教育的方策を考えてゆく。